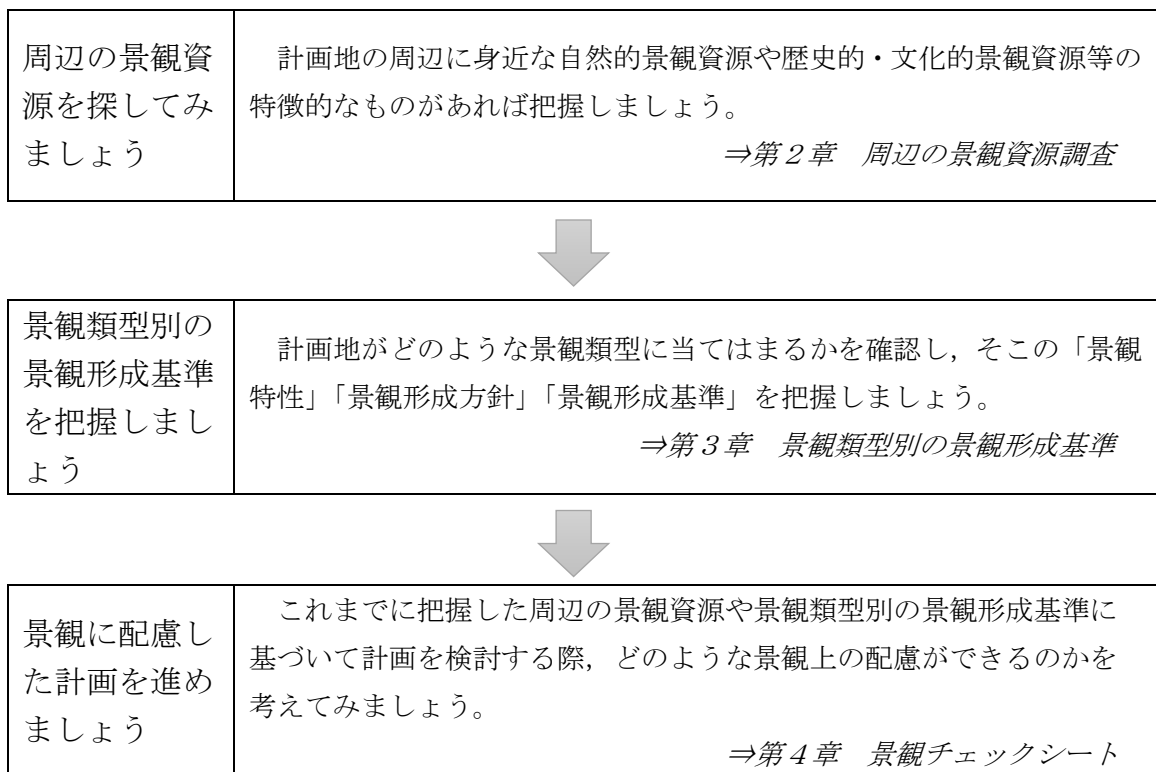


第1章 景観に配慮した建築行為等の計画・設計の進め方

建築行為等の計画の際には次の内容を把握しながら進めていくことが大切です。以下の内容に留意しながら当該行為等の計画・設計を進めてみましょう。

(1) 次のステップに基づいて当該行為等の計画・設計を進めてみましょう。



(2) 景観法の届出の有無について確認してみましょう。

景観法の届出 対象行為に該 当するか確認 しましょう	大規模な建築行為等は景観法に基づく届出が必要となり、景観形成基準に適合する必要がありますので、計画している建築行為等が届出対象行為に該当するか確認しましょう。 ⇒第5章 景観法の届出制度の解説
-------------------------------------	---



計画段階から 事前相談を行 いましょう	計画の熟度の低い段階から、届出者と市との間で協議調整を行いながら、鈴鹿らしい景観の魅力向上に努めていきましょう。 そのため、計画段階から条例に基づく事前相談を行っていく必要がありますので、このことを念頭に計画・設計を進めていきましょう。 ⇒第5章 景観法の届出制度の解説
---------------------------	---